

和歌山県の地震

第 2 8 卷 9 号
令和 2 年 9 月

和歌山県の地震活動

震央分布図	・・・・・・・・ 1
断面図	・・・・・・・・ 2
概況	・・・・・・・・ 2
和歌山県で震度 1 以上を観測した地震及び震度一覧	・・・・・・・・ 3
震度分布図	・・・・・・・・ 3

地震メモ No. 322

南海トラフ地震関連解説情報（令和 2 年 10 月 7 日）	・・・・・・・・ 5
緊急地震速報の訓練に参加しましょう	・・・・・・・・ 6

- * この資料に使われている震源要素（北緯・東経）は、世界測地系に基づいています。
- * この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- * この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図 25000（行政界・海岸線）を使用しています。

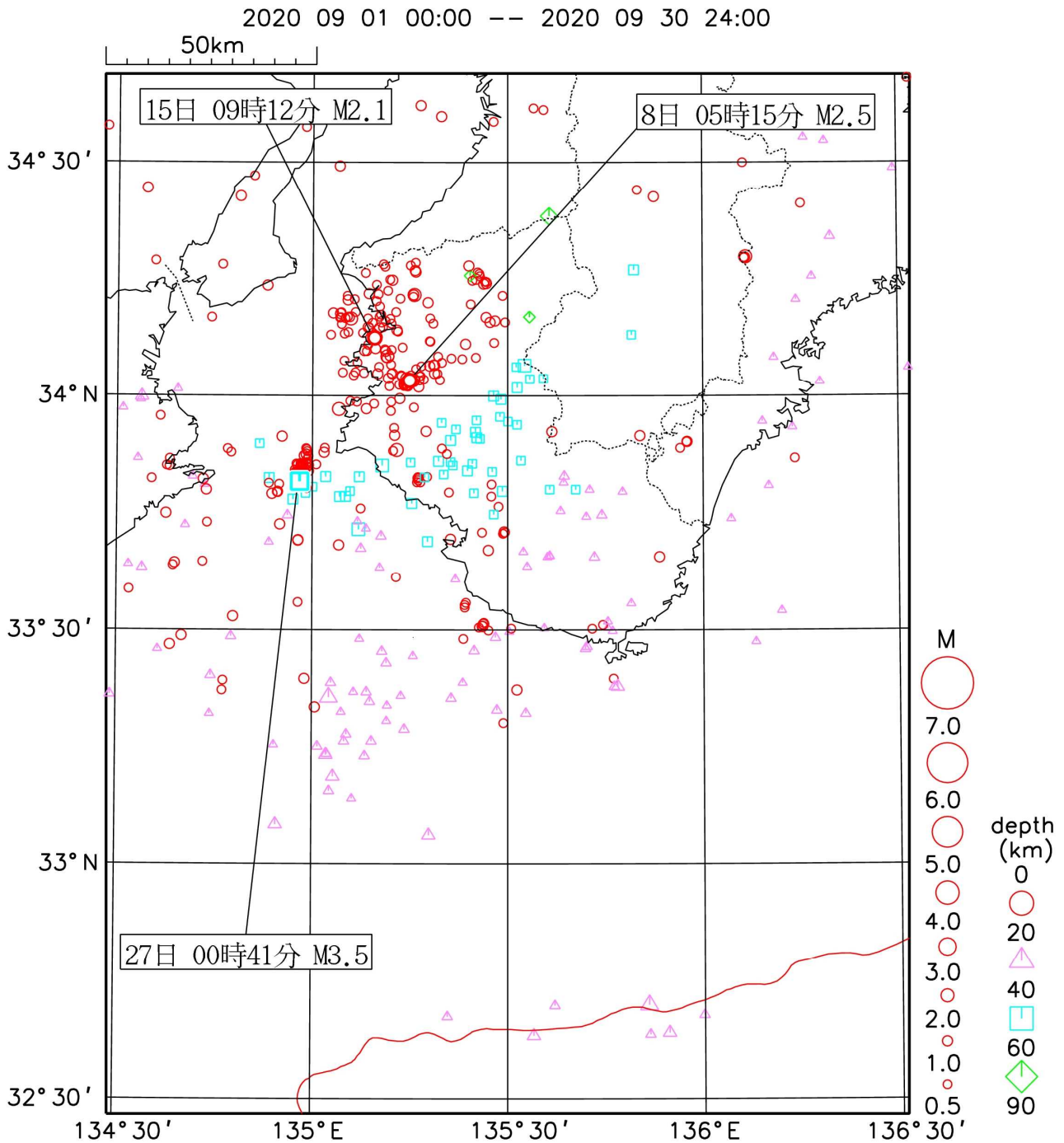
和歌山地方気象台

和歌山県の地震活動

2020年9月

和歌山地方気象台

震央分布図

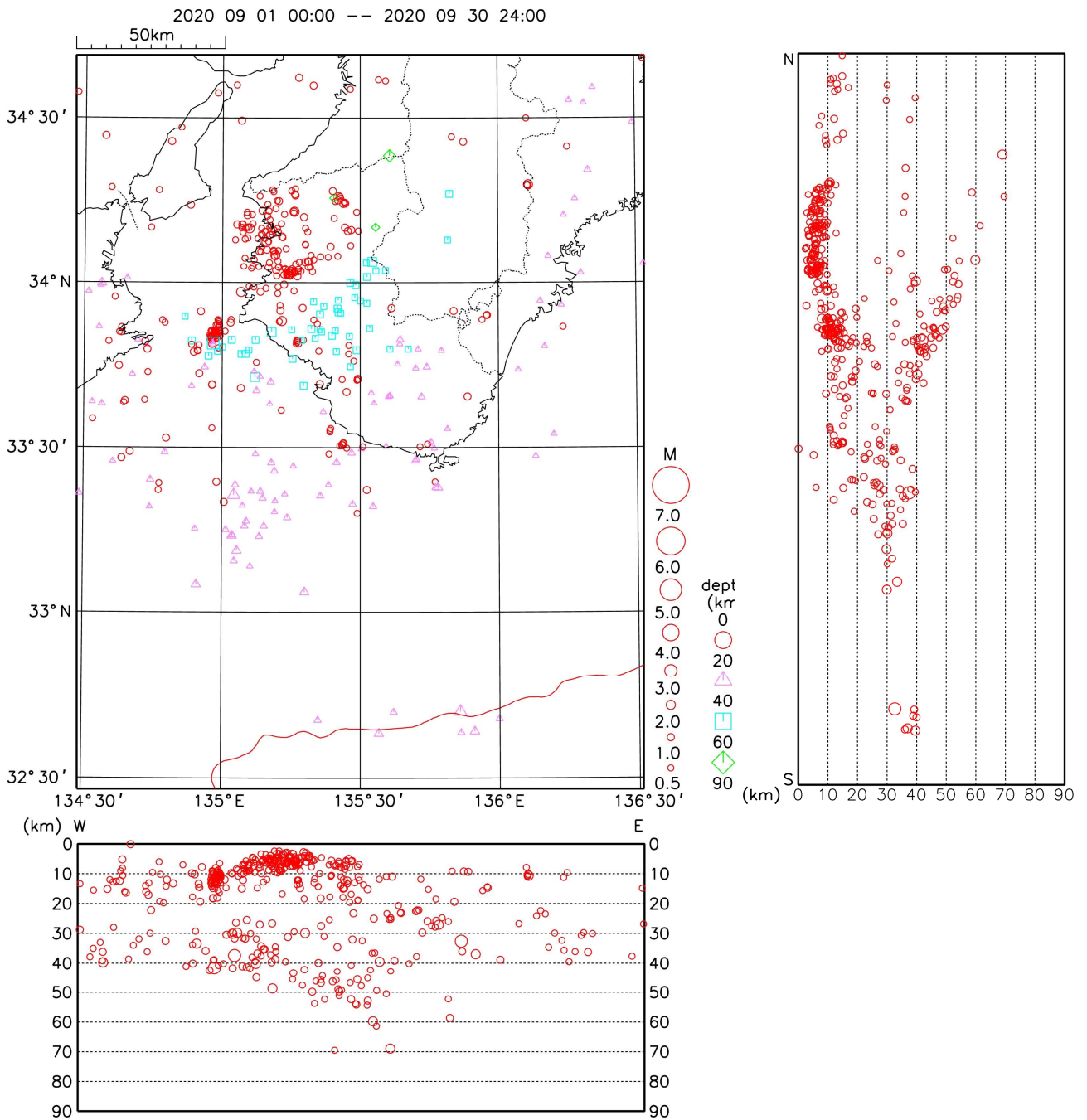


震央分布図は地震が発生した場所を地図上に描画したものです。

シンボルマークの大きさと地震の規模（マグニチュード）を、シンボルマークの形と色で震源の深さを表しています。また、赤線は海溝軸（南海トラフ）の位置です。

図中の吹き出しは、和歌山県内で震度1以上を観測した地震および震央分布図内で最も規模の大きな地震を示しています。

断面図



概況

9月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード(M)2.0以上の地震は25回(前月は23回)でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、27日00時41分紀伊水道の地震(M3.5、深さ42km)でした。この地震はフィリピン海プレート内部で発生しました。

9月に和歌山県内で震度1以上を観測した地震は、3回(前月5回)でした。

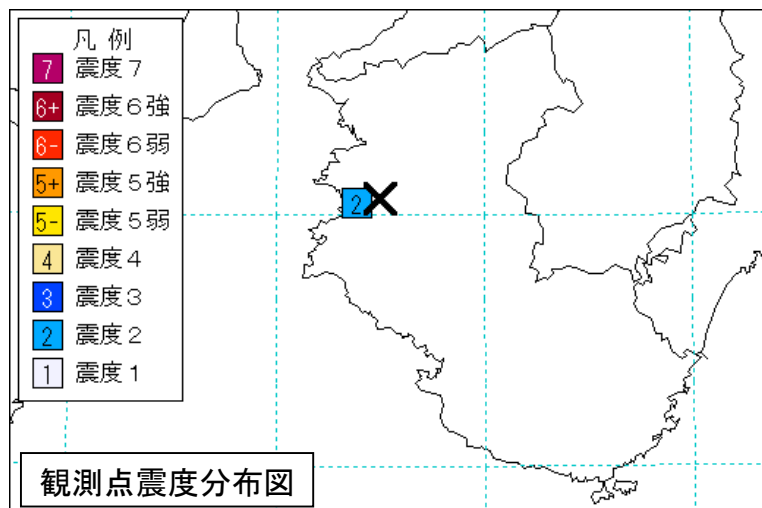
和歌山県で震度1以上を観測した地震及び震度一覧

発震時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度（和歌山県内のみ掲載）					
2020年09月08日05時15分	和歌山県北部	34° 01.9' N	135° 14.9' E	4km	M2.5
和歌山県 震度 2：湯浅町青木*					
2020年09月15日09時12分	和歌山県北部	34° 07.4' N	135° 09.5' E	6km	M2.1
和歌山県 震度 1：有田市初島町*					
2020年09月27日00時41分	紀伊水道	33° 49.0' N	134° 58.0' E	42km	M3.5
和歌山県 震度 1：有田市箕島, 有田市初島町*, 湯浅町青木*, 由良町里*, 有田川町下津野*					

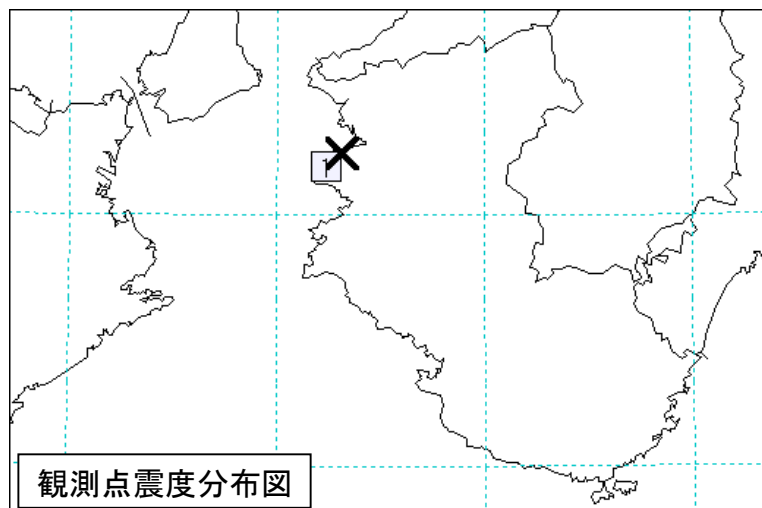
名の最後に*のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

震度分布図（図中の×は震央）

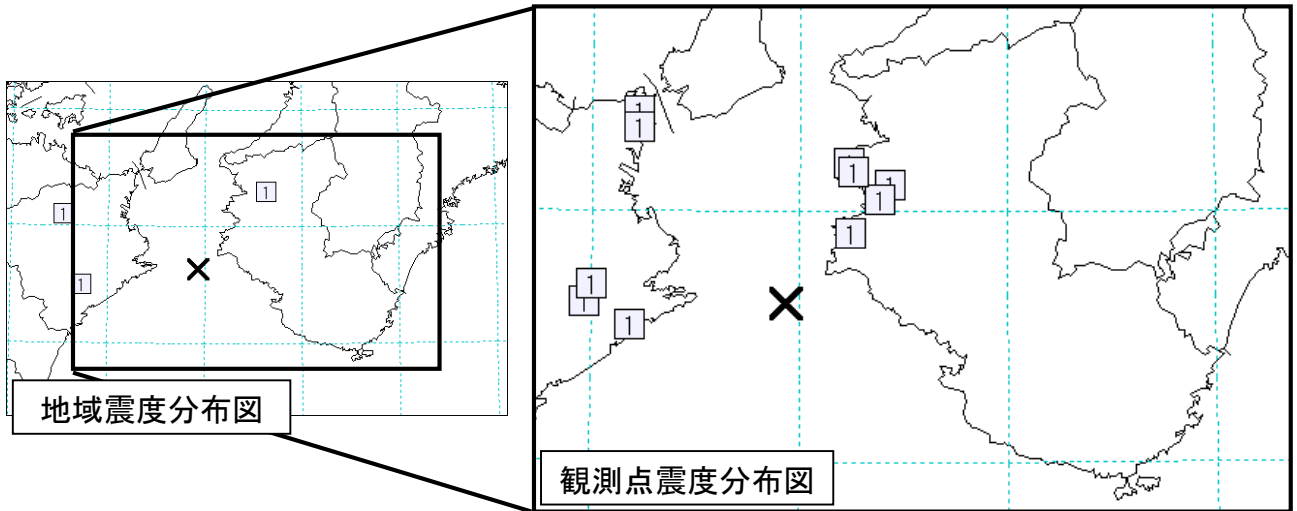
2020年09月08日05時15分 和歌山県北部の地震(M2.5、深さ4km)



2020年09月15日09時12分 和歌山県北部の地震(M2.1、深さ6km)



2020年09月27日00時41分 紀伊水道の地震(M3.5、深さ42km)



南海トラフ地震関連解説情報 (令和2年10月7日)

南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

1. 地震の観測状況

(顕著な地震活動に関する現象)

9月27日13時13分に静岡県西部の深さ45kmを震源とするM5.1の地震が発生しました。この地震は、発震機構が東西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレート内部で発生しました。

(ゆっくりすべりに関係する現象)

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震(微動)のうち、主なものは以下のとおりです。

(1) 東海: 9月2日から7日

2. 地殻変動の観測状況

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)の深部低周波地震(微動)とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しました。周辺の傾斜データでも、わずかな変化が見られています。

GNSS観測によると、2019年春頃から四国中部でそれまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されています。また、2019年中頃から志摩半島で観測されているそれまでの傾向とは異なるわずかな地殻変動は、最近では停滞しているように見えます。

(長期的な地殻変動)

GNSS観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

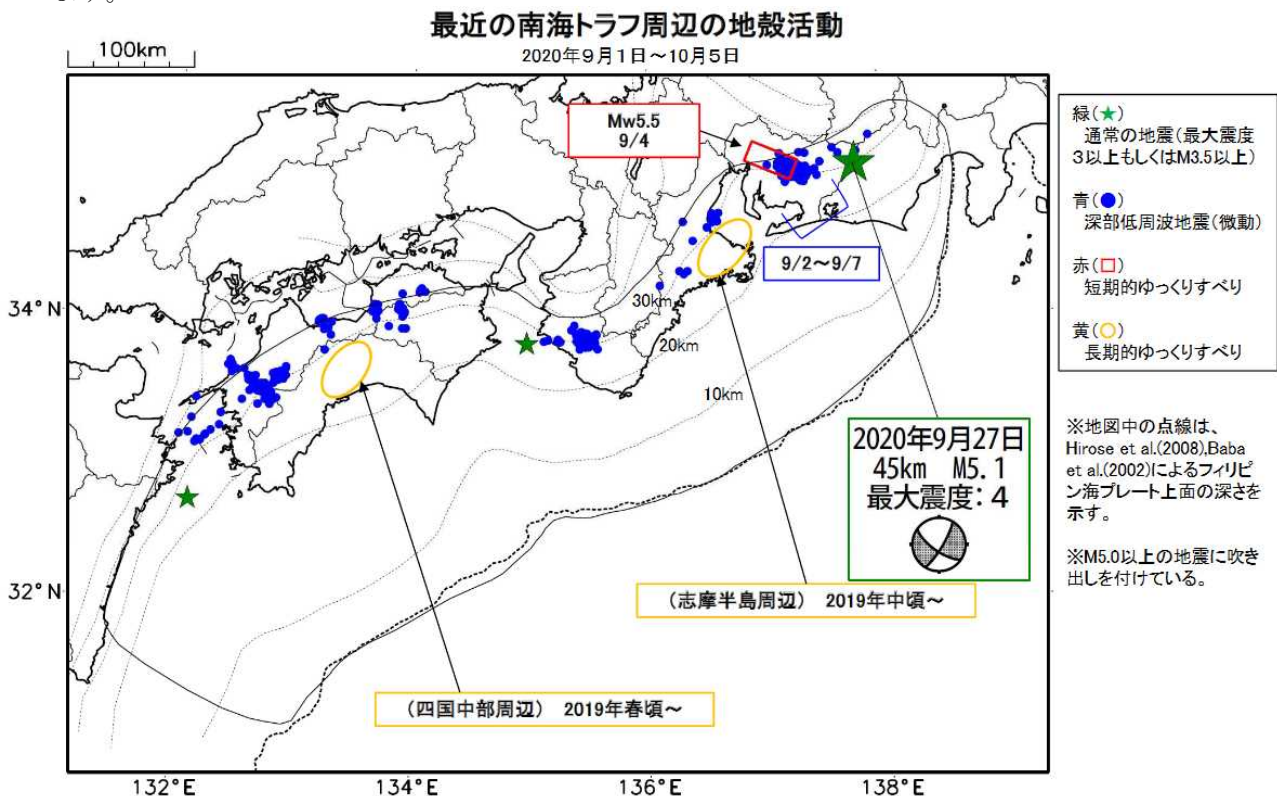


図 南海トラフ周辺の地殻活動をとりまとめた図

この資料は、「南海トラフ地震関連情報」の普及を目的に、発表された『南海トラフ地震関連解説情報』の内容を抜粋、編集加工した概略を掲載しています。各観測状況の評価等、より詳細な事項は以下URLの資料をご覧ください。

- 南海トラフ地震関連解説情報 <https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nteq/index.html>
- 報道発表資料 <https://www.jma.go.jp/jma/index.html> ※新着情報をご覧ください

緊急地震速報の訓練に参加しましょう

気象庁では、11月5日（木）に緊急地震速報の全国的な訓練を実施します。

緊急地震速報を見聞きした時に、慌てずに身を守る行動ができるよう訓練に参加しましょう。

当日は、気象庁からの訓練用緊急地震速報を配信します。訓練に参加する地方自治体の防災行政無線や、一部商業施設などから緊急地震速報の放送があります。

なお、訓練の緊急地震速報は、テレビ・ラジオの放送や、携帯電話・スマートフォンの緊急速報メール（エリアメール）には流れません。（一部のコミュニティFM等を除く）

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/kunren/2020/02/kunren.html>

1. 訓練実施日時

令和2年11月5日（木）10時00分頃（気象庁からの訓練用緊急地震速報の配信時刻）

※気象・地震活動の状況等によっては、訓練用の緊急地震速報の配信を急きょ中止する場合がありますので、御了承ください。中止を決定した場合には、速やかに気象庁ホームページ等でお知らせします。

2. 訓練の参加方法

緊急地震速報を活用した訓練は大きく2つのやり方があります。

①気象庁から配信される訓練用緊急地震速報を活用する方法

- ◆ お住まいの自治体の防災行政無線や商業施設などで緊急地震速報が放送される場合があります。自治体からのお知らせ、気象庁のホームページ等でご確認ください。
- ◆ 緊急地震速報を受信する端末をお持ちの方は、ご契約の事業者から配信される訓練用の緊急地震速報や受信端末に備わる訓練機能を利用できる場合があります。訓練用の緊急地震速報の配信の有無については、ご契約の事業者等の周知・案内等をご確認ください。

②独自で訓練を行う方法

- ◆ 緊急地震速報を受信する端末の機能として、ボタン押下等により動作テストや訓練用の報知等を行えるものがあります。
- ◆ 気象庁ホームページで公開している訓練用動画を利用できます。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/kunren/kit.html>

- ◆ スマートフォンの「地震防災訓練アプリ」を利用できます。株式会社NTTドコモ「地震防災訓練アプリ」は各社のスマートフォンで利用可能です。（一部ご利用できない機種もあります。）詳細については株式会社NTTドコモのホームページをご覧ください。

3. 訓練でやること

訓練の緊急地震速報を見聞きしたら、速やかに安全な場所へ移動するなど、それぞれの場面に応じた身の安全を確保する行動をとりましょう。

地震による揺れから身を守ることが、地震・津波防災の第一歩です。

緊急地震速報は見聞きしてから強い揺れに襲われるまでの時間がごくわずかであり、その短い間に慌てずに身を守るなどの防災対応をとるためには日頃からの訓練が重要です。

また、周囲の状況により身を守る行動は異なります。日頃からいざという時の行動を考えておきましょう。気象庁ホームページに具体的な行動例を掲載していますので、参考にしてください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/koudou/koudou.html>